

まいづる 元気人 ①7

わたしと舞鶴

まいづる細川幽齋 田辺城まつり 実行委員会

実行委員長 山本 公彦さん



舞鶴で生まれ、舞鶴で育ち、数々の町おこし事業に取り組んでこられた山本さん。趣味は詩吟と山伏修行。自称？「田辺藩の黒田官兵衛」。これまでのエピソードや田辺城まつりの思いを伺いました。

戦後の思い出

市では今、引き揚げのユネスコ世界記憶遺産登録に向け気運が高まっています。私自身も小学校2、3年生のときに引揚援護局へ慰問に行き、引揚者の前で「長い間ご苦労さまでした。明日は故郷が待っています。明日は私たちの歌を奏せよう」とあいさつし、ひげもじゃのおじさんたちに頼りされたのを覚えています。

高校卒業のとき、同級生は皆大学に進学しましたが、私は家業を手伝うために舞鶴に残りました。「故郷で山本はがんばるか、みんなもがんばれ」と舞鶴でのまとめ役を買って出ました。成人式で「毎年成人の日に集まる」と約束し、以降、50回の集いを開いています。私の活動のすべては、級友たちとのつながりで支えられています。

町おこし

町を活気づけたいと「新世界商店街」や「ちゃったまつり」の立ち上げに関わりました。ちゃったまつりは一から手作りのお祭りでしたが、教育隊の会場に約6万人が集まり、商店街からは「まちの中がからっぽになった」と言われました。教育隊の格納庫を使った「お化け屋敷」は、店の昆布やこんにゃく、お寺で不要となった物などを持ち寄って作り、市民に好評でした。そして、舞鶴自動車道の開通や宮津線の廃止、また、JRならびにターミナルの移行など、今後の舞鶴の行く末を案じる中で、町おこ

りの必要性を感じ、44歳のとき市会議員に立候補し、5期20年任期を務めました。その間、JR舞鶴線や小浜線の電化、KTRの存続、東・西駅舎の建て替え、駅周辺の大改革など、大きな事業に携わらせていただきました。

田辺城まつり

田辺城まつりは、平成4年に城門が建設されたのを記念し開催され、今年で23回目を迎えます。ちゃったまつりがルーツです。このまつりは、町を活気づけたい、その中で町の文化や芸能を次世代に残したいとの思いでスタートしました。

今年（5月24日、25日）に開催いたします（14ページに関連記事）。詳細は調整中ですが、「玉原の太刀振」の披露、幼稚園児が作った「絵灯笼」の展示などの催しも企画しています。

今年も総勢約1,000人の武者行列が街中を練り歩きます。自衛隊や保安学校、教育隊などの皆さんも毎年参加し、「舞鶴でのよい思い出になった」と言っていたとき、とてもうれしく思います。また、25日は大型クルーズ客船「コスタ・ビクトリア」が舞鶴に寄港する日と重なります。まちを挙げて「おもてなし」をしたいと考えていますので、ぜひ、皆さんもおまつりに参加して楽しんでください。

昨秋、周りの方々のご協力のおかげで叙勲をいただきました。これからも舞鶴のいきわいのために、微力ですが関わってまいります。

まいづる花図鑑 93

【ヤマツツジ】

(ツツジ科)
見ごろ5月頃



やや日当たりのよい山地の林の中や道端などに生える半落葉性の低木。葉は対生し、短い柄があり、枝先に輪生状に集まってつく。初夏に、枝先の1個の花芽から1〜3個の赤色の漏斗状の花を開く。名前の由来は、山に咲くツツジから。観賞用として栽培もされ、まれに白色もある。

子どもの頃、卯月8日の花まつりには、この花を採ってきて竹ざおの先に飾り、お寺へ甘茶をもらいに行ったものです。

【協力】

瓜生勝朗 市文化財保護委員（植物分野）

